

スキャンゲージ (Scan Gauge II) by Linear Logic

取り付け・操作マニュアル

www.scangauge.com

www.second-wind.jp

警告

運転中に ScanGaugell を操作することは大変危険です。ScanGaugell の操作は必ず車を止め、安全を確認してから行ってください。

ScanGaugell は運転の視界を妨げない場所に設置してください。またケーブルは運転操作の妨げにならないようしっかりと固定するようにしてください。

ScanGaugell は何台の車でも使用することができます。ScanGaugell に含まれるソフトウェア、ハードウェアのコピーライトは Linear-Logic に帰属します。この一部又は全てを他の製品に転用することは Linear-Logic からの文書による同意なしには禁止されています。

このマニュアルの内容は予告なしに変更することがあります。

取り付け

- 1) OBD コネクタの位置を確認します。コネクタは通常ダッシュボード下にありますが、モデルによってはセンターコンソールなどに取り付けられている場合があります。
- 2) ScanGaugell の取り付け位置を決めます。付属のベルクロテープを使用すれば、必要に応じて簡単に ScanGaugell の取り外しができます。
- 3) 付属のケーブルを ScanGaugell の裏側または側面のコネクタに接続します。
- 4) イグニッションを ON にします。
- 5) ケーブルを OBD コネクタに接続します。ScanGaugell が自動的に車の ECU に接続を開始します。
- 6) ScanGaugell の初期設定をします。HOME 画面の MORE>SETUP から表示単位の選択、エンジン排気量、燃料の種類、ガソリンタンクの容量などの設定ができます。設定は後で何度でも変更可能です。

ScanGaugell が OBD コネクタに接続してから通信が確立されるまで最大 60 秒かかります。

通信を確立するまで次のような表示になります。

Connecting...	
<TRIP	MORE>

TRIP と MORE ボタンは通信が確立される前でも使用可能です。ECU との通信が 75 秒以内に確立できない場合、ScanGaugell はスリープモードに入ります。イグニッションが再び ON になった場合、又は HOME ボタンが押されると ScanGaugell は再び通信を開始します。

通信が確立されると、画面はスリープモードになったときの表示、又は HOME ボタンが押されたときの表示に変わります。

<SCAN	GAUGE>
<TRIP	MORE>

操作方法

ScanGaugell は 4 つのボタンによって操作します。それぞれのボタンが押されると、次の選択肢を表示する画面に切り替わります。HOME ボタン (赤く縁取りされたボタン) は最初の画面に戻るとき、又はスリープモードから再起動するとき使用します。

メニューの選択

4 つのメニュー / セレクトボタンが画面の 4 隅にあります。表示されている内容は「<」又は「>」の先のボタンを押すことで実行されます。例えば HOME 画面は次のような表示になります。

<SCAN	GAUGE>
<TRIP	MORE>

左上のボタンを押すとフォルトコードなどに関するスキャン機能の選択画面に変わります。右上のボタンは車速、エンジン回転数、ブースト圧などを表示するゲージ機能を選択します。左下はトリップメーター機能、右下は現在の表示とは別の選択画面に移動するボタンです。

次の画面のように「<」や「>」のない表示もあります。

P0321	CLEAR>
<PREVIOUS	NEXT>

左上の P0321 はフォルトコードです。この場合、左上のボタンを押しても画面は変わりません。他のボタンは表示されている機能を実行します。

次のような画面もあります。

Codes Cleared

この画面は全てのフォルトコードが消去されたことを表します。HOME ボタンで最初の画面に戻ることができます。

スリープモード

イグニッションを OFF にした後、又はエンジン停止後ボタンを押してから約 12 秒後に ScanGaugell は自動的にスリープモードに入ります。表示は消え、バックライトは OFF になります。エンジン始動、又は HOME ボタンを押すと ScanGaugell は再起動し、スリープモードになる前の画面に戻ります。

オートリピートボタン

ボタンを 1 秒以上押し続けると、自動的に 1 秒間に 2 回の割合で繰り返しボタンが押される状態になります。

フラッシュメモリー

ScanGaugell はバッテリーを必要としないフラッシュメモリーを使用しています。そのためバッテリーや ScanGaugell を車から外しても保存された設定が消去されることはありません。

設定の保存はスリープモードに入るときと、SAVE 又は DONE ボタンが押されたときに実行されます。

ScanGaugell のコネクターを外す場合は、スリープモードに入ってからにしてください。

HOME ボタン

ScanGaugell が作動しているときに HOME ボタンを押すと次の画面に切り替わります。

<SCAN	GAUGE>
<TRIP	MORE>

ScanGaugell がスリープモードのときに HOME ボタンを押すとスリープモードに入ったときの画面が表示され、もう一度 HOME ボタンを押すと HOME 画面になります。

HOME 画面からは次の 4 つの機能を実行することができます。

1) GAUGE

GAUGE ボタンを押すと現在選択されているゲージが表示されます。表示されている数値は自動的に更新されます。

次の画面は一例です。

710RPM	28MPH
15.2MPG	50FWT

この画面では「<」又は「>」が表示されていませんが、それぞれのゲージの横にあるボタンを押すと別のゲージに切り替わります。例えば、上の画面で左上のボタンを押すと次のような画面に切り替わります。

10TPS	28MPH
15.2MPG	50FWT

左上の表示が RPM から TPS に切り替わっています。ボタンを押すたびに表示可能なゲージに切り替わり、表示可能なゲージがなくなると元のゲージに戻ります。

表示可能なゲージの種類は車種、モデルによって異なります。

ゲージの省略記号

CLSD LP OPEN LP	Fuel system loop status	O2 センサーが空燃比の調整のために使用されている状態 (Closed-Loop) か、使用されていないか (Open-Loop) を示します。エンジンが冷えているとき、又はフルスロットル状態以外、通常は Closed の状態です。
CPM	Cost per mile	現時点の 1 マイルあたりの燃料消費を表します。
FIA CIA	Intake-Air-Temperature	吸気温度です。
FWT CWT	Water Temperature	冷却水の温度です。
FPR	Fuel-Pressure	燃圧です。表示機能のある車は稀です。
GPH LPH	Gallons-per-Hour Liters-per-Hour	1 時間あたりの燃料消費量を表します。
IGN	Ignition Timing	イグニッションタイミングを表示します。
LOD	Engine Loading	現在のエンジン負荷が最大負荷の何%かを表します。
MPG KPG MPL LHK	Miles/Gallon Km/Gallon Miles/Liter Liters/100Km	燃費を表します。通常は 2 秒毎に更新されます。
MPH KPH	Miles-per-hour Kilometers-per-Hour	車速の表示です。
MAP	Manifold-Absolute-Pressure	インテークマニフォールドの空気圧を表します。表示は PSI 又は KPA (キロパスカル) です。
RPM	Revolutions/Minute	エンジン回転数です。
TPS	Throttle-Position-Setting	スロットルバルブの開度を示します。通常は 0 - 100 ですが、車種によっては異なる場合があります。
VLT	Battery Voltage	バッテリーの電圧を表示します。

2) SCAN

フォルトコードが見つからなかったときは下の画面になります。

```
No Codes Found
--Ready--
```

--Ready—は最後にリセットしてから全てのテストが完了していることを示します。--Not Ready—が表示される場合は何らかのテストが完了していない状態です。テストサイクルが完了して--Ready—になるまでに数日かかることがあります。

フォルトコード(DTC)が検出された場合は、その数が表示されます。下の画面では 2 つのフォルトコードが検出されたことを示しています。

```
2 Stored Codes
<CODES      FRZD>
```

この画面はフォルトコードが 1 つ以上検出された場合に表示されます。

FRZD ボタン (フリーズデータ) を押すとフォルトが認識されたときのデータ (PID) が表示されます。この画面では右下又は左下のボタンを押すことで表示可能なデータを全て表示させることができます。終了したい場合は HOME ボタンで最初の画面に戻ります。

CODES を押すとフォルトコードが表示されます。

```
P0440      CLEAR>
<PREVIOUS  NEXT>
```

上の例では P0440 というフォルトコードが表示されています。この例では 2 つのフォルトコードが検出されているので、NEXT でもう一つのフォルトコードが表示されます。

P0446	CLEAR>
<PREVIOUS	NEXT>

この場合 NEXT をもう一度押してもフォルトコードは 2 つだけなので画面は変化しません。PREVIOUS で前のフォルトコードに戻ります。

P0440	CLEAR>
<PREVIOUS	NEXT>

CLEAR ボタンを押すと、フォルトコードの消去を実行するかどうかの確認画面になります。

CLEAR	CODES ???
<YES	NO>

フォルトコードの消去を実行する場合には<YES を、キャンセルする場合は NO>を押してください。<YES ボタンが押されるとフォルトコードが消去され下の画面に切り替わります。

Codes Cleared

この操作は「Check Engine (チェックエンジン)」ライトとフリーズフレームデータも同時に消去します。フォルトコードが消去できない場合は画面に何も表示されないままになります。

3) TRIP

TRIP (トリップ) ボタンは当日と一日前の走行データ、最後に給油してからのガソリン量、走行距離、走行時間に関するデータなどを表示させることができます。

- Maximum Speed (最高速度)
- Maximum Coolant Temperature (最高水温)
- Maximum Engine RPM (最高エンジン回転数)
- Average Speed (平均速度)
- Average Fuel Economy (平均燃費)
- Trip Miles (走行距離)
- Trip Elapsed Time (経過時間)
- Trip Fuel Used (ガソリン消費量)
- Trip Fuel Cost (消費ガソリン価格)

TANK (タンク) 機能は次のデータを表示させることができます。

- Fuel Used Since last Fill-up (最後に給油してからのガソリン消費量)
- Fuel Remaining (ガソリン残量)
- Distance Driven Since last Fill-up (最後に給油してからの走行距離)
- Distance Remaining before tank is empty (残りのガソリンでの走行可能距離)
- Time Driven Since last Fill-up (最後に給油してからの走行時間)
- Time Remaining before tank is empty (残りのガソリンでの走行可能時間)

下の画面は一例です。この画面では CURRENT (現在) の燃費が 15.3 MPG (Miles/Gallon) と表示されています。右上又は左上のボタンで表示データを切り替えることができます。

<	15.3 MPG	>
<CURRENT	RESET>	

例えば、右上のボタンを押すと下のような画面になります。この画面では 5.2 Gallons と現在の走行でのガソリン消費量を表示されています。

現在の走行データは RESET ボタンでいつでもリセットできます。また ScanGaugell がスリープモードになってから 3 分後に自動的にリセットされます。

<	5.2 GALLONS	>
<CURRENT	RESET>	

RESET ボタンを押すと現在の走行データは全てリセットされ、下のような画面に切り替わります。

```
< 0.0 GALLONS >
<CURRENT RESET>
```

左下のボタンを押すと下の画面のように別の走行データに切り替わります。

```
< 5.2 GALLONS >
<TODAY * >
```

TODAY (本日) の走行データ表示の場合、RESET ボタンはありません。TODAY の走行データはエンジンを停止してから 8-10 時間後に自動的にリセットされ、PREVIOUS DAY (前日) の走行データに置き換わります。

右下のアスタリスク(*)は ScanGaugell がその日のある時間に取り外されていたためにデータが完了していないことを示します。

注意：例えば朝早く車を運転し、その日の午後遅くまで車に乗らなかった場合、そのデータは PREVIOUS DAY (前日) となります。もし夜遅くまで車を運転し、翌日の朝早くに運転を再開したら、このデータは TODAY (本日) の走行データとして記録されます。TODAY (本日) の走行データが終了するのは、ScanGaugell が接続された状態で 8-10 時間エンジンを停止した場合のみです。

左下のボタンをもう一度押すと PREVIOUS DAY (前日) のデータに切り替わります。

```
< 10.4 GALLONS >
<PREVIOUS DAY >
```

左下のボタンをもう一度押すと TANK (タンク) データの表示に切り替わります。

TANK 機能は現在のガソリタンクに関するデータを表示することができます。例えば下の画面では、同じペースで走行した場合ガソリタンクが空になるまで (TANK TO EMPTY) 92.7 マイル (92.7Miles) 走行できることを示しています。

```
< 92.7 MILES >
<TANK TO EMPTY >
```

このタンクデータを活用するためには、MORE>SETUP>FUEL>TANK SIZE からガソリタンクの容量を設定しておかなければなりません。また、ガソリンを満タンにしたときには、HOME>MORE>FILLUP>DONE を実行する必要があります。

もう一度左下のボタンを押すと CURRENT (現在) の走行データに戻ります。

4) MORE

HOME 画面から MORE を押すと下の画面になります。

```
<DISPLAY FILLUP>
<SETUP MORE>
```

MORE>DISPLAY

この機能はディスプレイのバックライトの光度を調整します。

```
<OFF LAMP LOW>
<HIGH MORE>
```

MORE>DISPLAY>MORE

```
<PRG USER COLOR>
<COLOR >
```

COLOR ボタンはバックライトの色を以下の順番で切り替えます。

WHITE->USER->BLUE->GREEN->TURQUOISE->RED->VIOLET->AMBER->WHITE

USER (ユーザー) はユーザー自身でプログラム可能な色です。

MORE>DISPLAY>MORE>PRG USER COLOR

```
^ 3 RED GRN 1 ^
^ 1 BLUE SAVE>
```

画面のバックライトはユーザーカラーに切り替わります。上の画面の場合バックライトはピンク色になります。それぞれの色のボタンを押すと下の数字に対応した光度に切り替わります。

- 0 = 0%
- 1 = 25%
- 2 = 50%
- 3 = 100%

3色の組み合わせで63通りの異なる色を作ることができます。設定を保存する場合はSAVE>を押してHOME画面に戻ります。

注意：液晶画面は温度によって表示性能が低下します。特に、高温になると画面が暗くなり表示を読み取ることが困難になります。ダッシュボード上に取り付ける場合は注意してください。

MORE>SETUP

この機能は基本的な設定を行います。

<ENGINE	UNITS>
<SPEED	FUEL>

MORE>SETUP>UNITS

UNITSを選択すると下の画面になります。

<MILES	GALLONS>
< F	PSI >

この画面から表示単位を設定することができます。MILES ボタンを押すと下の画面に変わります。

<KM	GALLONS>
<F	PSI >

これは距離の単位がMILES（マイル）ではなくKM（キロメートル）であることを示します。同じボタンをもう一度押すとMILESに戻ります。

GALLONS ボタン（ガロン）はLITERS（リットル）に、F（華氏）ボタンはC（摂氏）に、PSIはKPA（キロパスカル）の表示に切り替わります。

HOME ボタンでHOME画面に戻ります。

MORE>SETUP>ENGINE

エンジン排気量を保存することで燃費がより正確に計算できる場合があります。一度保存した数値はScanGaugellの電源を外しても消去されません。保存した設定はいつでも変更可能です。SAVE>を押さなかった場合は、コネクタを外すまで保存されます。

<	3.0 LITERS	>
Engine		SAVE>

MORE>SETUP>FUEL

この機能は使用燃料の種類とガソリンタンクの容量を設定することができます。

<TYPE
<TANK SIZE

MORE>SETUP>FUEL>TYPE

この画面から燃費の計算をより正確にするために使用燃料の種類を設定することができます。

設定できる種類はGAS（ガソリン）、DIESELa（ディーゼルa）、DIESELb（ディーゼルb）、HYBRID（ハイブリッド）、LPGです。

<	GAS	>
Fuel Type		SAVE>

上側の左右のボタンは燃料の種類を選択するときを使用します。SAVE>を押さずにHOMEボタンでHOME画面に戻る場合、設定はScanGaugellのコネクタを外すまで保存されます。SAVE>を押すと設定は次に変更するまで保存されます。コネクタを外しても設定は消去されません。

MORE>SETUP>FUEL>TANK SIZE

これはガソリンタンクの容量を設定する画面です。

<	25 GALLONS	>
Tank Size		SAVE>

上の左右のボタンは燃料の種類を選択するときを使用します。

MORE>SETUP>SPEED

車速と距離はタイヤサイズの変更などの際に調整する必要があります。一度保存した数値は ScanGaugell の電源を外しても消去されません。保存した設定はいつでも変更可能です。SAVE>を押さなかった場合は、コネクタを外すまで保存されます。

<	0%	>
0=>		0 SAVE>

上側の左右のボタンは 1%刻みで調整値を変更するのに使用します。左下の数値は ECU のデータです。右下の数値は調整後の数値です。

MORE>FILLUP

この画面は給油ごとに使用してください。TO EMPTY (タンクが空になるまで) の情報を有効にするためには、ガソリンタンクの容量をあらかじめ設定し、満タンで給油する必要があります。また、この画面から燃費計算の調整をすることができます。

<	21.6 GALLONS	>
0.0%		DONE>

できるだけ正確な燃費計算を行うために、この調整を行う際には以下の手順を守ってください。

- 1) 燃料の種類、ガソリンタンク容量、エンジン排気量を設定してください。
- 2) ガソリンはポンプが自動で停止するまで満タンに給油してください。
- 3) HOME>MORE>FILLUP>DONE を実行してください。
- 4) ScanGaugell を接続した状態で通常走行を行ってください。
- 5) ガソリン残量が約 1/4 になったら、前回とできるだけ同じ条件で満タンに給油してください。
- 6) HOME>MORE>FILLUP を実行してください。ただし今回は DONE は押さないでください。ScanGaugell が計算したガソリン消費量が表示されます。下の例では 12.6 ガロンのガソリンを消費したという表示です。

<	12.6 GALLONS	>
0.0%		DONE>

- 7) 上側のボタンを使って実際に給油したガソリン量に表示を調整してください。この例では実際には 13.1 ガロンのガソリンを給油したので、数値を 13.1 に合わせます。その後に DONE>を押してください。

<	13.1 GALLONS	>
4.0%		DONE>

注意：4.0%はこの場合の調整値です。この数値を控えておくと、ScanGaugell を別の車で使用した後も再調整が簡単に行えます。

この設定を消去して 0%に戻したい場合は、MORE>MORE>MORE>USE DEFAULTS から YES でリセットできます。給油ごとに調整値を入力する必要はありません。単に HOME>MORE>FILLUP>DONE を実行してください。

MORE>FILLUP>DONE

DONE>を押すと TANK データをリセットし、ガソリン価格を入力する画面に切り替わります。

<	\$ 3.00	>
Fuel Cost		SAVE>

この画面からガソリン 1 リットルあたりの価格を入力することができます。上側の左右のボタンを押して \$0.01 刻みでガソリン価格を調整します。新しく入力した数値を保存する場合は SAVE>ボタンを押して HOME 画面に戻ります。

MORE>MORE>RATE

この画面ではゲージの更新レートを変更することができます。

RATE	FAST>
<NORMAL	SLOW>

デフォルトの設定では NORMAL (ノーマル) になっています。CAN システム車の場合には通常 FAST (ファースト) でも問題はありますが、KWP プロトコルなどの場合、NORMAL よりも速いレートでは動作が不安定になることがあります。その場合は SLOW (スロー) を選択してください。

MORE=>MORE=>MORE

HOME 画面から MORE を 3 回押すと下の画面になります。

```
<VERSION  XGAUGE>
      USE DEFAULTS>
```

MORE>MORE>MORE>VERSION

```
Version 3.13
Linear-Logic
```

この画面は ScanGaugell 内のファームウェアバージョンを示します。

MORE>MORE>MORE>USE DEFAULTS

USE DEFAULTS は ScanGaugell の変更可能な設定を全てデフォルトの設定にリセットするときに使用します。この機能を実行する場合には下の画面で<YES を、キャンセルする場合には NO>を押してください。

```
USE DEFAULTS ???
<YES          NO>
```

XGAUGE

XGAUGE (拡張ゲージ機能) は以下のものを通常のゲージ機能に加えることができます。

- ・車両情報
- ・トリップデータ
- ・追加ゲージ

ScanGaugell は全ての OBD 採用車種に対応できるよう設計されています。そのため ScanGaugell で「標準的」なデータ以外を表示させるには XGAUGE 機能を使用する必要があります。

車両からこういったデータを読み取るには以下の情報が必要です。

- ・車両に送るコマンド
- ・コマンドに対する応答の識別方法
- ・応答からのデータの取り出し方法
- ・取り出したデータの表示方法

この情報は LinearLogic のウェブサイトで閲覧することができます。

<http://www.scangaugell.com/support/pdfs/XGAUGE.pdf>

これらはアルファベットと数字の組み合わせで、ScanGaugell のフロントパネルボタンから入力することができます。入力した情報はフラッシュメモリーに保存されます。25 種類までこのコマンドを保存することができます。

MORE>MORE>MORE>XGAUGE

下の画面から拡張ゲージ機能を開始します。

```
< XGAUGE      0 >
<EDIT        SAVE>
```

右上と左上のボタンでメモリー番号を選択します。ボタンを押すごとに次のメモリー番号に移動します。24 の次は 0 に戻ります。

選択したメモリー番号が使用されている場合、3 文字のゲージ名がメモリー番号の隣に表示されます。メモリー番号が使用されていない場合は、ゲージ名は表示されません。

MORE>MORE>MORE>XGAUGE>EDIT

メモリーが開いている場合、下の画面が表示されます。

```
+_
-   TXD   OK>
```

左上と左下のボタンで下線付きの文字を順番に移動させます。右上のボタンは下線を次の文字に移動させます。下段の TXD は、入力中の数値が車両側のコンピューターに送るコマンドであることを示します。

注意：入力する数字は偶数でなければなりません。奇数が入力された場合、偶数になるよう最後に 0 が付け加えられます。

注意：最初の入力欄を空白にすると XGauge は機能しません。最初の入力欄を空白にしたまま OK を押すと、入力した文字は全て消去されます。この状態では XGauge の機能は OFF になりますが、他の入力情報は保存されたままになります。TXD を入力しなおすことによって XGauge の機能を再び開始することができます。

車両に送るコマンドを入力し終わったら、OK を押して RXF 画面に移動します。

```
+000000000000
-   RXF   OK>
```

この画面からは車両側のコンピューターからの応答を識別するための情報を入力します。この数値を基に ScanGaugell は必要な情報を識別します。入力方法は前の画面と同様です。また、入力した数値の一部は ScanGaugell がデータの表示方法を決定するのにも使われます。OK を押して次の RXD 画面に移動します。

```
+0000
-   RXD   OK>
```

この画面から入力する情報は、コンピューターからの応答内のどこに必要なデータがあるか、及びデータの大きさはどのくらいかを ScanGaugell に記憶させます。入力方法は前の画面と同じです。OK を押して MTH 画面に移動します。

```
+000000000000
-   MTH   OK>
```

この画面からは ScanGaugell が受け取ったデータをどのような数値として表示させるかの情報を入力します。OK を押して名前の入力画面に移動します。

```
+_
-   NAME  OK>
```

この画面から現在作成中のゲージの名前を 3 文字で入力します。入力文字は ASCII に基づく全ての文字、記号が使用できます。

注意：空白（スペース）入力も可能です。これは句点記号の最初に見つかります。

OK を押して最後の画面に移動します。

```
< XGAUGE   AAA  0 >
<CANCEL    SAVE >
```

CANCEL は XGAUGE の設定変更を保存せずに中断します。

注意：TXD の数値が空白の場合、名前は表示されずこのゲージ機能は OFF 状態になります。NOTE: If the TXD value SAVE を押して設定を保存すると最初の XGauge 画面に戻ります。

```
< XGAUGE   AAA 0 >
<EDIT     SAVE >
```

この画面で AAA はゲージの名前です。

操作のヒント

・入力済みのデータを他のメモリー番号にコピーする

保存の前にメモリー番号を変更することができます。この場合変更したメモリー番号へ全ての変更データが上書きされます。元のメモリー番号の内容は変更されません。

以前に入力した内容と似た新しい情報を入力する場合は、入力済みのメモリー番号の EDIT から内容を変更し、最後にメモリー番号を変更してから SAVE ボタンで保存すると、入力を簡単に済ませることができます。

・XGAUGE 機能でトリップデータを表示させる

トリップデータと他のゲージを同時に表示させることができます。

HOME 画面から MORE>MORE>MORE>XGAUGE で使用したいメモリー番号を選択し、EDIT を押します。ETXD 画面の最初の数字が表示させたいトリップ機能を表します。

0 = Average Fuel Economy (平均ガソリン消費量)

1 = Fuel used (ガソリン消費量)

2 = Max Coolant Temperature (最高冷却水温度) 又は Fuel Remaining for TANK trip (TANK 機能でのガソリン残量)

3 = Distance (走行距離)

4 = Max RPM (最高エンジン回転数) 又は Distance to Empty for TANK trip (TANK 機能での残りのガソリンでの走行可能距離)

5 = Time (走行時間)

6 = Max Speed (最高速度) 又は (TANK 機能での残りのガソリンでの走行可能時間)

7 = Average Speed (平均速度)

8 = Cost (ガソリン価格)

2番目の数字は以下を表します。

- ・ 0 = CURRENT Trip (現在のトリップデータ)
- ・ 1 = TODAY Trip (今日のトリップデータ)
- ・ 2 = PREVIOUS DAY Trip (前日のトリップデータ)
- ・ 4 = TANK Trip (TANK 機能)

例えば今日の走行時間を表示させたい場合は、次のように 51 を入力します。

+	51	
-	TXD	OK>

OK を押して RXF の入力画面に移動し、下の画面のように最初の数値を 8 と入力します。

+	800000000000	
-	RXF	OK>

この最初の 8 はトリップデータを表示させるための特別な数値です。次に OK を押して名前の入力画面に移動します。最後に SAVE を押して設定を保存します。

XGAUGE の設定後は、GAUGE 画面から他のゲージと同様に選択することができます。

710RPM	28MPH
15.2MPG	50FWT

例えば、この画面から RPM の横のボタンを数回押すことによって次のような画面を表示させることができます。

8.1TDT	28MPH
15.2MPG	50FWT

TDT は上で設定したトリップデータに付けた名前です。

保証

購入日から 1 年以内の通常の使用における故障・不具合は無償での修理・交換を承ります。ただしその場合、返品にかかる送料は購入者の負担とさせていただきます。詳細は以下の連絡先までご連絡ください。

Second Wind

〒338-0821

さいたま市桜区山久保1 - 17 - 6

若林ビル102

TEL: 048 - 858 - 0201

FAX: 048 - 858 - 0202

URL: www.second-wind.jp

E-MAIL: info@second-wind.jp